

## 福島と宮城の天理教

福島県と宮城県の天理教伝道を考えてみよう。

関東から白河関、勿来関を越えると東北に入る。東北地方のうち山形、秋田を除いた地域は陸奥（むつ）と呼ばれた。「みちのく」「みちのおく」とも言うが、これは日本の中央から遠いことを意味し、中央の立場から見た言い方であろう。教会本部からも遠い。しかし本教伝道は遠い東北にも明治20年代に力強く伸びてきた。これは遠隔地伝道に抛るところが大きい。

福島、宮城両県には山名系教会が多い。まず山名による遠隔地伝道を先に述べ、その他の教会は県ごとに書いてみよう。

両県にある教会はともに過半数が山名系である。まず福島県には磐城平大教会関係が25カ所あり、白羽大教会が22カ所、山名大教会が21カ所、その他の山名系4カ所で、県131カ所の内55パーセントを占める。宮城県も仙臺大教会44カ所、山名21カ所、白羽3カ所などで県134カ所の内約52パーセントにのぼる。

ちなみに他の東北4県も一樣に山名系の伝道が入り込んでいく。その結果、東北6県にある山名系教会は約240カ所<sup>(注)</sup>と、東北全教会の30パーセントになる。

東北に山名系伝道が浸透した理由を述べる。静岡県西部に興った山名分教会（現大教会）は明治26年に奥州（東北）布教を打ち出した。この頃すでに山名の伝道は静岡県にかなり広まっていたため、山名系の益津支教会と白羽支教会は遠隔地伝道を試みようとして東北へ布教師を送り出すことにした。なお、この両教会の初代会長は小栗周蔵と市十父子で同じ根から始まった教会である。

明治26年7月、小栗市十は二藤藤一郎を仙台へ視察にやろうとしたが山名初代会長諸井國三郎の助言で、まず福島に立ち寄らせた。二藤は初めて見る東北が布教の好適地であることを感じ市十に報告した。8月には市十も福島を訪れ、東北布教の有望なることを諸井に進言した。

同じく明治26年、信者宅にて教理勉強していた益津支教会の人たちは遠隔地伝道に行こうと籤で願ったところ仙台布教と出た。相談の結果、加藤清作と塚本勝次郎が行くことになった。7月仙台に着いた二人は早速付近をお助けにまわった。伊達62万石の城下町仙台の人たちは田舎者の布教師を相手にしなかったが、ある婦人のお助けから次第に宮城県内各地に広まった。現在、仙臺大教会のうち75パーセントが県内にある。

白羽、益津の東北行き直後、諸井の意をうけ、山名あげての「東北伝道」が打ち出される。布教師が一堂に集められ、東北地図を前に「〇〇県□□町」と司会が言うと、希望する者が「はい！」「はい！」と拳手し、決定するとその壮図を祝い拍手とともに太鼓が「どーん」となったという。本当にそんな演出をしたのだろうか。子供の頃、この場に居合わせた人の記憶を、私の師金子圭助氏が直接聞いたことだと言うから間違いない。

山名の東北伝道に際し、福島に「奥州山名布教取締所」が設置され市十がその責任者になった。やがてここは福島分教会になるが、福島県における白羽大教会系統の始まりである。

布教師が一堂に集められたのは明治26年夏のことだったが、その秋に引佐、周智、掛川の各支教会から福島県平町へ布教に

行く人が現れ、翌年、周智の岡野勘蔵らが腰を落ち着けて平町を布教した。入信した平町の人たちもお助けにまわり、明治27年に土地の人、平沢勇吉を会長に磐城平支教会（現大教会）が設置された。磐城平は現在福島県内に25カ所の教会を有しており、県では最も多い。

「東北伝道」の打ち出しをうけ、明治26年坂部籐八（六郷事務所—後の城東支教会）は福島県二本松町で布教、翌年名倉千代蔵（城山支教会）や白羽系の布教師も二本松町で布教し、大いに成果が上がった。教会設置にあたってどこの所属にするか議論されたが、山名直属として明治27年安達出張所（現分教会）が設立された。

さて、はじめに書いたように宮城県は仙臺大教会の44カ所をはじめその他の山名系教会を含めると、県の半数以上が山名系で占められている。

仙臺以外の山名系では石巻と唐桑へと伸びた道がある。明治27年、二俣支教会の平賀治三郎は宮城県石巻へ布教に出た。若い女性へのお助けが評判となり、旅館に滞在しながら布教に歩いた。二俣からの応援もあり、次第に信者が増え明治28年、内海五郎兵衛を会長に石巻支教会（現分教会）が設立された。内海は入信以前、町のため私財を出して北上川に架橋した名士だった。内海の人望で多くの町民が入信したという。なお創設者平賀は岩手県一関にわたり、二俣の布教師鈴木和七と共に布教し、明治28年一関布教所（現分教会）設立に尽力した。

現在、石巻分教会には10カ所の教会が宮城県内にある。また一関からも宮城県唐桑半島に伸び、唐桑分教会など6カ所の教会が宮城県内に出来ている。

最後に両県の山名系以外について触れておく。

福島県では日光系（都賀、中根、日光）の教会が20カ所余り、湖東・北洋系が10カ所ある。日光系は栃木県で盛んになり、それが隣接する茨城県に伝わり、さらに福島県に伝わったものである。また湖東・北洋は新潟県からの伝道である。

宮城県は、山名系以外はいずれの系統も10カ所に満たない。目立つのは梅谷大教会が9カ所、名古屋大教会が8カ所である。

梅谷は岩手県に部内教会30を超す磐井分教会があり、そこから宮城県に伸び9カ所の教会になった。

伝道初期の名古屋大教会は新潟県の北洋大教会と伝道地域を共有していた。山形県、宮城県に伸びた北洋系の教会が大正10年頃、教会整理のため名古屋大教会所属になった。

なお、福島県は山名系の遠隔地伝道が最初に試みられた所であり、東北で最も南に位置することもあって、他の東北各県より伝道開始が早く、明治20年代に設置された教会が20カ所ある。これは東北では最も多い。ちなみに他の東北各県の明治20年代の設置教会数は、宮城10、山形12、岩手11、秋田1、青森6である。

(注) 東北6県の山名系教会数は、福島71、宮城69、山形7、秋田18、岩手15、青森57

(訂正:前号の南紀大教会初代「下村謙三郎」は「下村賢三郎」の誤り、また教会設立地「本木」は「木本」の誤り。お詫びし、訂正します。)